



日高山脈館だより

HIDAKA MOUNTAINS MUSEUM NEWSLETTER

第6号 2011.2.

沙流川大学にて講演を行ないました。

「地質や自然を生かす」にはどのような方法が？

12月16日に開催された沙流川大学第8回講座にて「日高地区とジオパーク～自然と地質を生かしたまちづくりの事例～」の講演を行ないました。

内容は、この日高山脈館だよりに掲載しましたジオパークの特集～の内容をより詳しく解説し、様似町以外にも、世界ジオパーク設立前から独自のジオパークを設立していた糸魚川ジオパークの事例や、ジオパークを目指している茨城県北地域の取り組み事例などを付け加え、この日高地区で仮にジオパークを設立する場合には、何が優れていて何が不足しているのかということとを比較しました。

当日、沙流川大学に出席できなかった方や、興味のある方、内容を詳しく知りたいという方は、講演で使用したスライドのプリントを資料として用意いたしますので、日高山脈館までお問い合わせ下さい。

日高山脈ネイチャーセミナー2010 第6回「冬の自然観察会」
3月5日(土) 開催!

特集『ジオパーク』④

実際のジオパーク(様似町)を例として。

前号では、ジオパークとは、ジオ(地質・岩石)という基盤の上に、みなさんの興味を引くさまざまな魅力が存在した上ではじめて成立するというお話しました。このような例は、実際のジオパークではもちろん成立しています。同じ日高管内でジオパークとして成立している様似町(アポイ岳ジオパーク)の例をあげてみましょう。

様似町のジオといえば、代表的なものは、かんらん岩です。様似町幌満川下流の幌満かんらん岩体は、国際的に“Horoman”として知られています。ジオ以外の魅力に目を向けると、食では日高昆布が豊富に採ることが有名で、様似町では日高昆布フォーラムも催していますし、様似で栽培している米をアポイ米として販売しています。また、国の天然記念物であるアポイ岳の植生や、アポイ岳登山など挙げられますし、日高管内で最も古くから開けていた歴史背景や奇岩(親子岩)なども盛り込まれています。日高昆布や米は、かんらん岩に多く含まれている鉄やマグネシウムが活発な生育を促し、アポイ岳の特徴ある植生は、かんらん岩に含まれるニッケルの影響であるとの報告もあります。

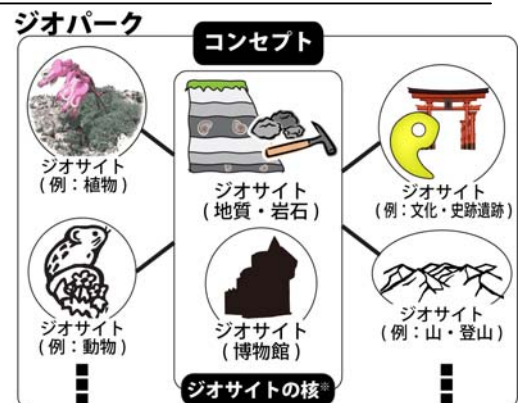
このように、ジオ以外のさまざまな魅力と、ジオとの関わりは、大変わかりやすいものとなっていて、それらを生かした観光も成り立っています。ジオパークの入り口を大きく広げるジオ以外の魅力があり、その魅力とジオとの関係が明確です。ただ、様似町に足りないものは、地質の普及機関(たとえば、博物館)や専門職員です。

日高地区ではどうでしょうか。日高山脈とその麓の地質は、様似に劣らず国際的に有名です。また、日高の地質や自然に関する教育・普及機関として「日高山脈館」があり、専門職員も配置されていますし、そこではさまざまな普及事業も催しています。あとは最も重要な、ジオとの関わりがわかりやすいジオ以外の魅力だけです。

ジオ以外の魅力を作り、見つけ出し、日高地区に人が来るようになれば、ジオの魅力がすでにあるこの日高地区もジオパークとして成立しやすくなるでしょう。

様似町アポイ岳ジオパークの例からもわかるように、「ジオ以外の魅力を発見する・創造する」このことが、日高地区がジオパークとして成立する最重要事項であると考えられるのではないのでしょうか。

さて、ジオパークの特集は今号で終了となります。ジオパークの重要な核の一つである、地質・岩石の教育・普及活動は日高山脈館の担当であります。教育・普及活動には、より一層取り組みたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。



※ジオパーク運営の中心組織ではありません。